



【2018-09-26】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感
有給休暇取得の義務化？

長野修二

有給休暇取得の義務化？

働き方改革法案が成立し、2019年4月から有給休暇取得（年間5日）が義務づけられます。

一部の大手企業などでは、リフレッシュ休暇等の名称ですでに企業独自に運用しているケースもあるのではないのでしょうか。

それでも多くの企業では、有給休暇の取得は案外むずかしいものです。

中小企業では、多くは経営者の姿勢如何でしょうか？

経営者が理解ある、あるいは有給休暇を含む時間外労働などを含めて生産性を考えているような経営者は、休みを含めて仕事を考えて行動しますから仕事のスケジュール管理もよくできており、しかも日々の仕事の問題や課題を上司や経営者、あるいは社員と共有していることも多く、その企業の業績はよいように思います。もっとも、それだけ所定内労働時間の仕事は厳しい内容になるのは当然でしょう。

反対に経営者が休みや時間外労働に無頓着な場合、企業内のコミュニケーションは悪く従業員同士や上司との関係もあまりよくないと感じたものです。

単純に休みと考えていますが、その根本にあるのは個々の生活を豊かにしながら、企業においては日々の仕事を充実したものにすという視点があるかどうかです。

やはり、休みが取りやすい企業では、必ずよいコミュニケーションが前提にあります。

それは当然だと思います。

限られた従業員の中で仕事をしているのですから、休みが多い企業が、休みが少ない企業と同等な業績をあげるための工夫が必要になり、とくに社員間で協力しながら仕事をまわしていかなければ、企業の存続が危ぶまれます。

だいたいこのような企業では、社員に経営情報が開示されており、休みと同時に仕事のやり方、たとえば、休暇を取得する社員の仕事のバックアップ体制の構築などやるべき課題を解決するといったことを社員同士で考えて行動しています。

自分たちの権利も行使するが、企業の仕事に対する責任も自覚し

ているところができが悪い企業とは根本的に違います。

だからこそ、企業と社員の好循環が生まれて良い経営と好業績が継続されます。

このようなことができない企業は、当然ですが、企業内がバラバラで雰囲気は暗く、はきがない社員ばかりとなり、管理職も同様に人生や仕事の意味を考えることもなく、日々惰性で生きているようなものでしょうか。

やがて、そのような企業はこの社会から存在しなくなりました。

仕事は人生そのものではありません。

仕事も人生の一部ですが、人生はそれぞれの人間が自分でみつけて自分で作っていくものです。

有給休暇取得の義務化自体がそもそもおかしいものかも知れません。

有給休暇は、一定の要件のもとに個人が取得できる権利を有しているからです。

それを国が主導して義務化することにもこの国の問題が内在しているように思えます。

私が在籍していたソニーグループでは、1990年代はじめにフレックスホリデーで年2回9連休を取得するように会社側から義務付けられました。

しかも、経営者を含む全従業員が対象です。

年間休日も入社時に年間124日、さらに最終的には131日になりました。

いまでも驚く休日数ですが、それに上記10日の有給取得があるので、年間150日くらい休んでいたことになります。

入社時こそ、企業立ち上げで休むことはできませんでしたし、休日出勤や時間外労働も多く、入社時の年収は540万円を提示されましたが、12月までの7か月間で約900万円の年収でしたから、この年いかに休日労働と時間外労働があったかがわかります。

結論からすれば、労働基準法違反だったのですが、私は人事や総

務の仕事を覚えることが先決でしたし、なんの基礎知識がないのに休日や時間外手当をもらうことのほうが心苦しいものでした。その分、後に仕事で貢献したと自負しています。

入社1年目以降は、立ち上げ業務も一段落していきましたら、2年目からこのような無謀な仕事（私は無謀だと思っていませんが、一般の人からみれば無謀でしょうか？）はなくなり、休暇は子供たちとよく遊んだものです。

また、連続休暇は夏休みを中心に家族旅行をしていました。それでもそれ以外の連続休暇は、家でぶらぶらしていましたのでなんだかもの足りないものがあったように思います。また、子供たちは学校ですから9日間じっと家におり、妻は私の食事の世話などで辟易していたように記憶します。

その後、転職してこのような恵まれた環境を離れてはじめてあるとき勉強していればよかったと思ったものです。

私のような馬鹿は、常に後になって気づきます。恵まれた環境にいる人は、この点は気づきにくいところでしょうか。

恵まれない環境にいる人でも、くじけず本を読んだり勉強をしておくことでしょうか。

なにげないことの積み重ねが、その人の人生を作ります。間違っても休みがその人の人生を作るものではありません。世間の流れの中だけに人生の色づきがあるのではないのでしょうか。

休暇が取れようと取れまいと自分の人生をどのように描くはやはり自分自身の考え方と行動で決まると信じています。